

553.32 : 550.8 (521.53) : 622.19

岐阜縣倉木鉱山マンガン鉱床調査報告

宮本 弘 道*

Résumé

Manganese Deposit at Kuraki Mine, Gifu Prefecture

by

Hiromichi Miyamoto

Manganese deposit at Kuraki mine, Gifu Prefecture, has "Kuroshiro" brick silica stone as hanging walls and alternated strata of chert and slate as foot walls. The ores are rhodonite, rhodochrosite, etc. The ore grades are estimated at Mn 25-35% and SiO₂ 20%.

要旨

昭和26年2月14日より31日間に亘り岐阜縣洞戸地方の鉱床を概査した。その内の倉木鉱山のマンガン鉱床に関する結果を報告する。

1. 鉱区

鉱区番号 岐阜縣採掘 200

鉱種 マンガン

鉱業権者 大阪府中河内郡石切町 155

辻中鉱業株式会社

2. 位置および交通 (第1図参照)

現場の位置

岐阜縣武儀郡上牧村御手洗字倉木

越美南線美濃町駅の北西方 5 km

1:50,000 地形図 美濃町

現場に至る径路

美濃町駅 バス 10km → 上牧橋 徒歩 2km → 現場

搬出径路

現場 輕索 180m → 貯鉱場 トラック 12km → 美濃町駅 (東五番坑坑口)

3. 沿革

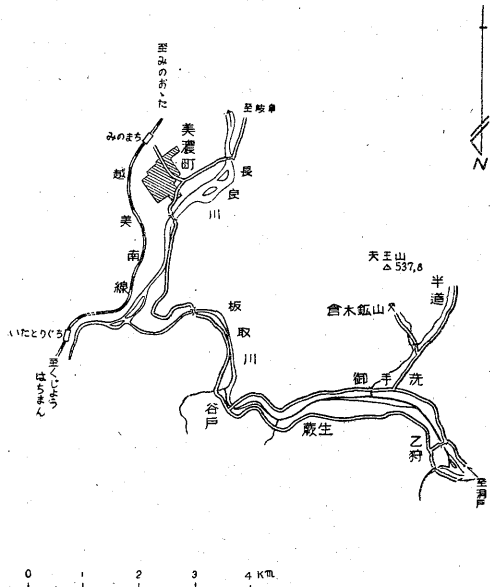
本地域に大正2年太田善右衛門マンガン露頭発見の上鉱区設定, その後鉱業権は轉々したが加藤重五郎時代が最盛期で, 大黒坑およびエビス坑より二酸化を出鉱した。深沢時代に蛇谷坑が稼行され, 炭溝が初めて出荷さ

* 鉱床部

れた。昭和13年辻中鉱業株式会社の経営に移り, 現在におよぶ。

4. 地形

本地域は長良川とその支流板取川の合流点の南西方の山塊に属し, 現場は海拔標高 537.8 m の天王山の北斜面に位し, 谷底より約 70 m の高位置を占む。附近の谷壁は 25° の傾斜で, V字形の谷をつくる。所々に珪質岩石類からなる高さ 10 m 以上の急崖がつくられ, 搬出に輕索を利用する方が有利である。現場附近において流水を豊富に利用することはできない。

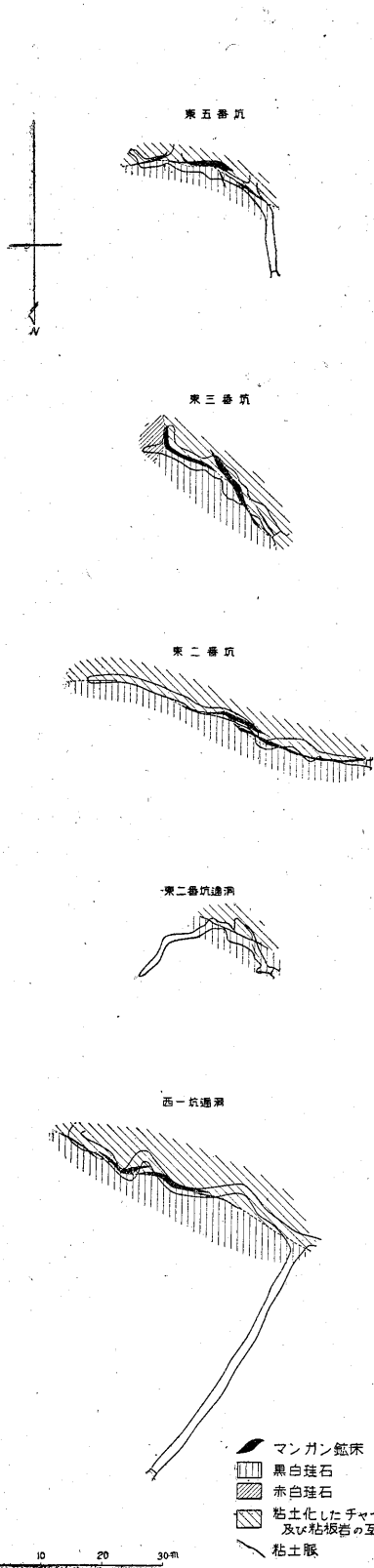


第1圖 倉木鉱床位置交通圖

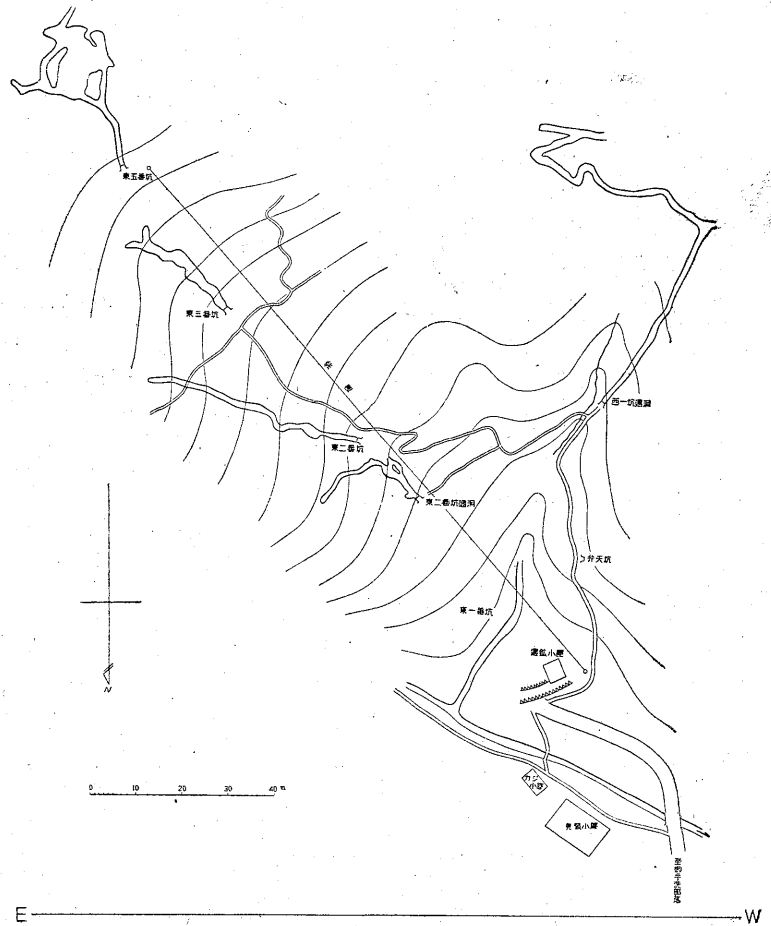
5. 地質

地質は古生層とこれを貫く石英斑岩とよりなる。古生層は主として粘板岩砂岩層・チャート粘板岩互層・赤色珪岩赤色粘板岩互層等より, 走向は N 40°~70° W, 傾斜は概して北落ちである。粘板岩は黒色片状のものが多く, 砂岩は細粒緻密な硬砂岩である。珪質岩層は小皺曲に富み, 角礫質の黒白珪石と称せられるものはマンガン鉱床附近に賦存し, 一部赤白珪石に漸移する。石英斑岩は径 2~3 mm の石英斑晶の多い「ネバダイト」で, 現場見張小屋の西方に露出する。

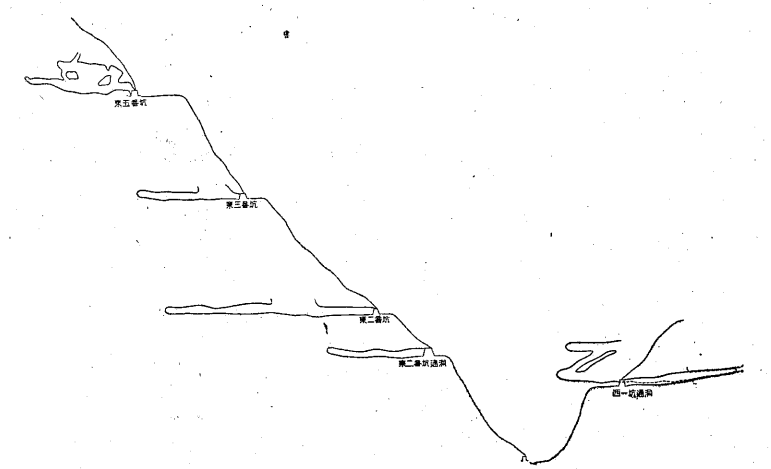
岐阜縣倉木鉾山マンガン鉾床調査報告 (宮本弘道)



- マンガン鉾床
- 黒白珪石
- 赤白珪石
- 粘土化したチャート及び粘板岩の互層
- 粘土層



↑ 第3圖 坑内外連絡図およびE-W断面圖



← 第2圖 坑内地質鉾床圖

6. 鉛床 (第2図および第3図参照)

主な鉛床は東鉛床および西鉛床の2條にして、雁行状に配列する小鉛体の集合よりなる。上盤はおおむね黑白珪石で、一部赤白珪石に変わる。下盤はおおむね粘板岩チャート互層で粘土化を受ける。

東鉛床 本鉛床は十坑道が存し、入坑し得たのは東五番坑・東三番坑・東二番坑・東二番坑通洞の4坑道で、東五番坑より上部および東二番坑通洞より下部の6坑道坑口は崩壊し、坑内状況が明らかでないが東二番坑通洞の下部坑道において本鉛床の下限が認められるのでないかと推定される。走向 N 50°~80° W, 傾斜 30°~40° N 東二番坑内における確認延長は 50 m 余りで、東五番坑内における最大鐘幅を掘跡より 2 m 以下と仮想される。同坑の上部における鐘幅は 1 m を示し、鉛況優勢であるが、東二番坑内の平均鐘幅は 0.2, 同坑の西引立においては 0.1 m で、鉛況劣勢となる。東二番坑通洞内で約 10 m の粘土鐘を追うことができ、鉛山当局の話によれば、該粘土鐘押に東二番坑内の最大鐘幅 0.3 m の鉛体まで切上ることができるとのことである。まとまつた残鉛は東五番坑の上部のみである。

西鉛床 本鉛床は東方に谷を挟み東鉛床に対し、西一坑本坑および西一坑通洞があり、西一坑本坑は坑口崩壊し、坑内状況が明らかでない。上盤は黑白珪石で、赤白珪石の部分は確認されない。走向 N 80° W, 傾斜 30° N。規模は延長 50 m, 最大鐘幅 0.5 m, 傾斜延長 20 m で、西一坑通洞の踏前は平均鐘幅 0.3 m を保っている。同坑の西引立の鐘幅は 0.2 m である。西一坑通洞より上部はおおむね採掘済となる。

7. 鉛石および品位

鉛石は主に栗タン・アヅキ・シマアヅキ・バラキ・ミヅマン等の炭溝で、酸化鉛は東五番坑上部および西鉛床の上部に多いが、おおむね採掘済となる。構成マンガノ鉛物はバラ輝石・菱マンガノ鉛・テフロ石系統の鉛物・緑マンガノ鉛・硬マンガノ鉛・軟マンガノ鉛で、脈石として石英・黄鉄鉛・方鉛鉛等があり、方鉛鉛は小鉛体の周縁部に僅かに認められる。

東五番坑上部の残鉛品位は Mn 30~40%, SiO₂ 25~35%, 西一坑通洞踏前では Mn 25~35%, SiO₂ 30~35%と見込まれる。

8. 現況

稼行鉛床 1 (東鉛床)

稼行坑道 1 (東五番坑)

選 鉛 研抜き程度の手選, 2種類に選別される。

1等鉛 Mn 38%以上, 2等鉛 Mn 25~38%

出 鉛 昭和25年の出鉛量約 300 kg, 北海電化伏木工場に送鉛される。

設備 軽便索道1基, 延長 180 m.

労務者在籍数 10名

9. 結論

東五坑上部の西鐘押, 東二番坑通洞内の粘土鐘の西押, 西一坑通洞下部の探鉛等の問題が残されているが、本鉛床に関しては大略規模明らかにされ、残鉛も余り期待されない。西鉛床の下部に対しては最大数百 kg の鉛量を期待することができるから、その方面の探鉛を進めべきものと思う。(昭和26年2月~3月調査)

553.574.062

赤(青)白珪石中の包裹液の産状について(予報)

岩 生 周 一*

Résumé

A Preliminary Report on the Liquid Inclusions in some Compound Brick Silica Stone in Japan

by

Shūichi Iwao

Considering the important bearing on

the ceramic practice as well as on the scientific research in the liquid inclusions in the compound brick silica stone called by the commodity name of "Akashiro" in Japan, the writer attempts to make more detailed descriptions of the inclusions.

Briefly fold the inclusions are mostly confined to vein quartz in the silica stone, about 1 mm. to 0.06 mm. or less in diameter, occupying about 1% of the host in

* 地質部・鉛床部兼務